

はなの輪

広島市植物公園植物友の会

2023年1月-3月 通巻第174号



園長のおすすめ 2022年3月20日号より

ハヤトミツバツツジ

Rhododendron dilatatum Miq. subsp. *satsumense* (T.Yamaz.) Minamit.

広島にもたくさん自生しているコバノミツバツツジの仲間、鹿児島県だけに自生しています。葉が出る前に、ツツジ類の中では最初に開花する種類の一つです。一緒に咲いているゲンカイツツジに比べると花が艶やかで、遠目にもよく目立ちます。

(園内位置：ツツジ・シャクナゲ園)

[写真・文 世羅 徹哉]

園長のおすすめ

植物公園ブログでは、園長のおすすめを定期連載中です。

見ごろの植物や最新のイベント情報も掲載しています。



<https://blog.hiroshima-bot.jp>

オオバナソシンカと オオハウカンボク

早いもので、大温室がリニューアルオープンしてまもなく5年になろうとしています（リニューアルオープンは平成30年3月3日）。リニューアルオープン時には小さかった植物も5年という歳月をかけて随分大きく成長しました。今回は、リニューアル時に新しく導入した冬に咲く植物についてご紹介します。

最初はオオバナソシンカです。オオバナソシンカは、マメ科ハカマカズラ属の植物で、同属の中で最も花が大きく美しい植物とされています。香港で発見され、ランの花に似ていることから、英名はホンコンオーキッドツリーとされています。沖縄県にある東南植物楽園できれいに咲いていたので印象に残っている植物でした。

大温室に植栽されている株は、平成29年3月に惜しまれつつ閉園した長崎県立亜熱帯植物園から導入しました。平成29年10月に定植したのですが、わずか数か月で開花し、翌年の同時期にはさらに多くの花を咲かせて入園者の目を楽しませてくれました。5枚ある花弁のうち、中央の1枚だけ色と模様が異なるのが特徴的です（写真1）。



写真1 オオバナソシンカの開花の様子

次に紹介する植物は、オオハウカンボクです。先ほど紹介したオオバナソシンカと同じマメ科の植物で、熱帯アメリカ原産です。花序は直径が20cmにも及び、大変美しいことから、宝冠に見立てて「大宝冠木」と名付けられました（写真2）。リニューアルの際には、ぜひ導入したいと考えていた植物で、こちらは沖縄から導入しました。オレンジ色の丸っこい大きな蕾は卵のような形で、見ていて面白いです（写真3）。1つの花序は小さい花が100輪以上集まったもので大変豪華で見応えがありますが、残念ながら花もちが悪く、観賞期間は満開からほんの数日間です。多くの蕾を付け、次々開花させることができれば、長い期間花が楽しめるので、ぜひ大きく育てて株の充実を図りたい植物です。また、花だけでなく、新芽が伸び始める時期も注目したい植物です。茶色く色づいて垂れ下がった葉は実に特徴的です（写真4）。



写真2 オオハウカンボクの花



写真3 オオハウカンボク
の開花直前の蕾



写真4 オオハウカンボク
の垂れ下がった新芽

2023年1月～3月 展示会・イベント案内

2/11 (土)
～ 2/14 (火)

バレンタイン フェスティバル

大温室では、カカオの実が成っています。会期中、恋や愛に関する花言葉を紹介した「花みくじ」をプレゼント（先着200名）！「99本のバラの花束」と撮影できる（11・12日のみ）フラワーバレンタインも。

2/18 (土)
～ 2/26 (日)

春の特別ラン展

今年のテーマは「ランで彩るG7」、大温室をランで華やかに飾ります。世界初の奇跡の青色コチョウラン Blue Gene®の展示も必見です。会期中は毎日愛好団体による洋ランの販売と栽培相談も実施します。

3/4 (土)
～ 4/16 (日)

ゼラニウム展

（公社）日本植物園協会のナショナルコレクション登録の「変わり葉ゼラニウム」のほか、花色が美しいゼラニウム・ペラルゴニウムを多数展示します。

展示会のご案内

新型コロナウイルス感染症の拡大防止のため、展示会・イベントを中止・延期する可能性があります。

新春小品盆栽展	共催：広島小品盆栽会	1/7～1/9	展示資料館
冬の鉢花展		1/7～2/5	展示温室
植物写真コンテスト作品展		1/14～2/12	展示資料館
広島市植物公園写生大会入賞作品展		1/21～2/9	展示資料館 ロビー
おもと（万年青）名品展	共催：日本おもと協会広島県支部	2/8～2/14	展示温室
フラワーデザイン展	共催：日本フラワーデザイナー協会広島県支部	2/18～2/23	展示資料館
春の特別ラン展	協力：広島洋蘭倶楽部他	2/18～2/26	大温室及び 展示温室
「草木染の世界」展	共催：広島草木染の会	2/25～4/6	展示資料館
ゼラニウム展		3/4～4/16	展示温室

新春小品盆栽展



「草木染の世界」展



Event Information 2023 1-3

植物園で開催されるイベントを紹介します

1月

小品盆栽実演会（先着100名）
1月8日（日）午後1時半～2時半

野鳥観察のすすめ（先着70名）
1月9日（月・祝）午前10時半～12時

2月

おもと（万年青）実演会（先着10名）
2月11日（土・祝）午後1時半～2時半

絵本「ひと粒のチョコレートに」の朗読と
チョコレートづくりの体験（先着100名）
2月12日（日）午後1時半～2時半

フラワーデザイン実演会（先着100名）
2月19日（日）
午前11時～正午、午後1時半～2時半

洋ラン実演会（先着20名）
2月19日（日）、23日（木・祝）、
25日（土）、26日（日）
午後1時半～2時半

3月

洋ラン栽培講習会（先着100名）
3月11日（土）午後1時半～2時半



しいたけ栽培講習会・菌打ち体験会
（ホダ木が無くなり次第終了）
3月21日（火・祝）午前10時～午後3時

「草木染の世界」展ギャラリートーク
（先着10名）
3月26日（日）午前11時～

新型コロナウイルス感染症の拡大状況によっては、イベントを中止・変更する可能性があります。来園前に最新の状況を植物公園ホームページや電話でご確認ください。

- ＊2月4日（土）午後1時～、5-Days子ども文化科学館アポロホール（250人収容）にて研究活動発表会を実施します
- ＊毎週土・日曜日・祝日 午後1時半～3時20分は、ガイドボランティアが園内を案内しています
- ＊毎月第2火曜日・第4土曜日 午前11時～は、園内で職員による植物うんちく語りを実施しています

◇募集◇ ※往復ハガキに催し名・住所・氏名・電話番号（・希望日）を記入してお申込みください。
植物公園のホームページ（Web申込のQRコード）からもお申込みいただけます

催し名・日程	内容等	定員	締切	Web申込
ショコラミルによるチョコ製造体験 2月11日（土・祝）11:00～正午、13:30～14:30	チョコ体験：石臼「ショコラミル」によるチョコレート作りを体験します。	各回10組 （抽選）	1月25日 【必着】	
子ども織物教室 3月26日（日）13:00～14:00、15:00～16:00	小さな織機を使って、オリジナルの織物マットを作成します。 対象：小学生とその保護者 材料費：500円	各回10組 （抽選）	3月8日 【必着】	



小品盆栽実演会



ショコラミルによる
チョコ製造体験



フラワーデザイン実演会



しいたけ栽培講習会

春の特別ラン展

Spring special orchid exhibition



洋ランの華やかな装飾（イメージ）



愛好団体による展示



奇跡の青色コチョウラン Blue Gene®

春の特別ラン展では、約500種類4,000鉢の洋ランで大温室全体を華やかに装飾します。中国地方の5つの洋ラン愛好団体が一堂に会し、約400点の作品を展示するほか、県内の洋ラン生産者による品評会も。たくさんの洋ランに囲まれて、一足早く春の訪れを感じてみませんか。

黄色い春の花木

Yellow blooming trees in spring



ソシンロウバイ



マンサク・プリマヴェェラ



ミツマタ



トサミズキ



ギンヨウアカシア



アオモジ

早春から春の花木には、上の写真のように「黄色の花」を咲かせるものが多く存在します。冬枯れの中で咲く花はよく目立ち、しばしば季節の話題として取り上げられます。では、なぜ「黄色の花」を咲かせるのでしょうか。黄色はアブやハエなど早春から活動する昆虫のなかまにとって、目にひく（敏感に反応する）色で、花粉を多く運んでもらうための工夫と考えられています。

1月～3月に見ごろを迎える植物



アイスチューリップ
(カスケード)



ハナナ [菜の花]
(花の進化園)



スノードロップ
(花の進化園)



カエンボク
(大温室)



オオベニゴウカン
(大温室)



カラコエ 鍛弁慶
(展示温室)



アロエ ダイリニシキ
(サポテン温室)



クレマチス ウィンターベル
(ロックガーデン)



ヨウシュセツブンソウ
(ロックガーデン)



ミチノクフクジュソウ
(里山の野草園)



ウメ 藤牡丹枝垂れ [愛称：登龍梅]
(日本庭園)



ソシンロウバイ
(芝生広場奥)

冬の時期でも寒さに負けず花を咲かせる植物があります。屋外を散策するのがおっくうな時期ですが、園内の冬の花を探してみてください。さて、植物はどのようにして季節を感じているのでしょうか？例えば、桜は主に年明け以降の気温変化で、開花のタイミングが決まります。一方で、菊のように日長の変化で季節を感じる植物もあります。春の訪れが待ち遠しいですね。
[写真・文：久保 晴盛]

Plant Doctor Q&A

植物公園では、緑の相談窓口を設置しています。
家庭園芸のお困りごと、何でもご相談ください。
[☎082-922-3600 金曜を除く午後1時～4時]

Q. 今度シクラメンを買おうと思っています。どんな株を買えば良いのでしょうか？

A. まず、シクラメンについてですが、葉の数、葉の大きさ、株元、鉢の種類の4点に注目してみてください。葉の数についてですが、シクラメンは1枚の葉に対し1個の花をつける性質があるので、葉が多いものを買うとより多くの花を楽しむことができます。葉の大きさについては、小さく引き締まったものを選びましょう。また、葉裏の色が濃いものの方が強い株です。株元については、葉をかき分けて、傷んだ葉や溶けて腐っている葉がないか確認します。このような株は病気の可能性があるので気をつけましょう。

最後に鉢についてですが、シクラメンでは底面給水鉢に植えられて流通しているのをよく見かけます。底面給水鉢とは、鉢の底面に貯水用の受け皿があり、鉢底から水を吸い上げるタイプの鉢です。かん水は普通鉢の場合、葉や球根に水がかからないように、ハス口を外したジョウロで株元に与えましょう。底面給水鉢の場合は貯水皿の水がなくなったら、水を与えます。水を与える量は貯水皿の7～8割程度にしておくことで、空気の間隔ができ根腐れを防止することができます。また、用土の底部を冷やさない役割もあります。底面給水の場合は、培養土内の空気の入替や老廃物の排出を目的に2～3週間に1度株元から水やりをするとうまいでしょう。これらを念頭に株を選んで下さい。

[文 田中 宏昌]

Q. バラ園（オールドローズの区画）で、バラに交じってたくさん咲いていた白い花の草花は何ですか？

A. オルラヤ（オルレア）・グランディフローラ（*Orlaya grandiflora*）という、ヨーロッパ南部原産のセリ科の植物です。多年草と紹介されますこともありますが、高温多湿の日本では夏越しが難しく、園芸上は秋まき春咲きの一年草扱いをします。純白のレースのような花が群生して咲く姿は見事で、「ホワイトレース」の名で流通することもあります。開花期は4月～6月頃でバラの開花期に合致し、またレース状の花がバラの引き立て役として使いやすいことから、

バラとコラボする草花として近年人気になっています。目立った病虫害もなく育てやすい草花ですが、種子の流通量が少ないので、一般的には春先に出回るポット苗を購入します。

こぼれ種で殖えやすいこともオルラヤの特徴のひとつで、入手翌年からはこぼれ種から咲かせることにチャレンジすることをおすすめします。こぼれ種を期待するなら、花後すぐには刈り取らず、種子が完熟して地面に脱落する7月頃まで栽培を続けます。発芽は9月～11月頃にかけて断続的に続きますので、10月以降は発芽した株を上手に残すことにより、翌年の春はこぼれ種で殖えたオルラヤを楽しむことができます。

[写真・文 泉川 康博]

Q. 花壇に花苗の植え付けをおこなっていたところ、「深植えはいけないよ」と注意されました。何が悪かったのでしょうか？

A. 植物の苗や球根を深く植えることを「深植え」と言います。植物を土中に深く植えることで、倒れにくくはなりますが、根に酸素が届きづらいというのに乾きにくくなるため、根が腐ってしまい、生育が悪くなることがあります。さらに、株元が蒸れて腐りやすくなってしまいます。これらのことから、多くの草花の苗では、深植えは厳禁とされるものが多いのです。

一般的には、根鉢と土の表面の高さが同じになるように植えることが適切です。特に注意したいのが、ガーデンシクラメンです。深植えにすると球根が腐ってしまいます。一般的な草花より浅く、球根の頂部を地表に出すように植え付けます。

[文 富澤 まり]



写真 オールドローズとオルラヤのコラボ

秋のグリーンフェア2022・植物公園開園記念関連行事について

市民の緑化意識の高揚を図るとともに、花と緑と音楽の広島づくりに対する理解と参加を促進するため、令和4年10月29日（土）～11月3日（木・祝）までの6日間、「秋のグリーンフェア2022」を園内で開催しました。なお、11月3日の文化の日は、植物公園の開園記念日でもあります。

期間中は天候に恵まれたこともあり、目標入場者数7,700人を超える9,718人が来園され、様々なイベントや園内の見ごろの花などを楽しまれました。

カープコラボイベントとして、土・日・祝にはカープユニフォームを着てきた方にカープグッズをプレゼントしましたが、開園後約10分で先着100人への配付が終了してしまうほどの人気でした（写真1）。また、見どころめぐりクイズラリー、花と緑の講習会（写真2）、花と緑と音楽のコラボステージ、バオバブタッチングイベント、花すくい（写真3）、園芸ミニ講座（写真4）等、多くのイベントに幅広い年齢層の方が参加され、植物や音楽に親しまれていました。

11月6日（日）には植物公園開園記念関連行事として、イベント広場で五月が丘チアダンスサークル・リトルマイアーズ、戸山チアリーディングクラブSunnys、ヒップホップスマイルの3団体によるダンスステージ（写真5）やコスモスのお花摘み体験（写真6）を行いました。こちらも晴天の下、多くの来園者にイベントを楽しんでいただき、好評でした。

[写真・文 山崎みどり]



写真1 カープグッズプレゼント



写真2 手作り木工クラフト



写真3 花すくい



写真4 球根博士に教わるスイセンの植付



写真5 ダンスステージ



写真6 コスモスのお花摘み

 **広島市植物公園**

広島市佐伯区倉重三丁目495

☎ 082-922-3600 📠 FAX 082-923-6100

- 開園時間 午前9時～午後4時半（入園は4時まで）
- 休園日 毎週金曜日
- 入園料 大人510円、高校生および65歳以上170円、中学生以下無料
- 駐車料 軽・普通自動車450円、中・大型車1,400円

